

川越まつり山車ロボットコンテスト 2019 の報告

日時：2019年11月24日（日）13:00～16:00

場所：ウェスタ川越（「かわごえ産業フェスタ」会場）

コンテストの概要：

14回目の開催を迎えた川越まつり山車ロボットコンテストは、山車ロボットコンテスト実行委員会（東洋大学理工学部機械工学科の有志教員により構成）によって主催・運営されており、日本機械学会関東支部埼玉ブロックが後援しているものである。主に高校生（場合によっては中高一貫校の中学生も可）向けのロボットコンテストであり、地元の伝統文化である「川越まつり」（2016年12月にユネスコの文化遺産にも認定された）の山車（だし）をロボットで模擬するという、ユニークなロボットコンテストである。活動は、8月に行う「講習会」と、11月に行う「コンテスト（本番）」とに分かれている。

コンテストの様子：

昨年に引き続き、川越市・川越商工会議所などが共催で行っている「かわごえ産業フェスタ」の枠組みの中でのコンテストとなった。当日は、4つの高校から39名の生徒が参加し、計13台のロボットが競技に挑んだ。競技は前半の単体競技と後半の複数台競技に分かれ、熱戦が繰り広げられた。

今回は今年開催されたラグビーワールドカップや来年開催される東京オリンピックを題材にしたロボットが参加し、いずれもコミカルな外観と動きで観客を和ませていた。川越の町を彩るような行灯型のロボットがいる一方、LEDライトが光ったり、ウサギやカブトムシの動きでアピールするといった趣向を凝らしたロボットも数多くいた。ラグビーワールドカップを題材としたロボットでは、ラグビー部顧問の先生に相談し、日本チームと南アフリカチームの熱戦が臨場感をもって再現されていた。今回はチーム参加が多く、ぎりぎりまで相談しながらロボットの調整をする姿が印象的であった。

コンテストの結果：

技術点、芸術点が最も高かったロボットに、それぞれ最優秀技術賞、最優秀芸術賞が贈られた。

最優秀技術賞：新座総合技術高校 三年女子チーム 「forest sound」

最優秀芸術賞：松山高等学校 ビートルズ 「P アイコ」

また、印象的な外見とパフォーマンスをしたロボットが審査員特別賞に選ばれた。

審査員特別賞（JAPAN ROBOTECH 社賞）：川越東高等学校 二年生チーム 「行灯号」

審査員特別賞（やきとりひびき賞）：松山高等学校 バジェットクラブ 「battleless tank号」

審査員特別賞（東洋大学機械工学科同窓会賞）：狭山工業高等学校 チーム狭工03 「TRY号」



図1 前半の単体競技



図2 後半の複数台競技



図3 コンテストに参加したロボット



図4 全員で記念撮影
(文責：窪田佳寛（東洋大学）)